

# 平成31年度（令和元年度） 学校評価表

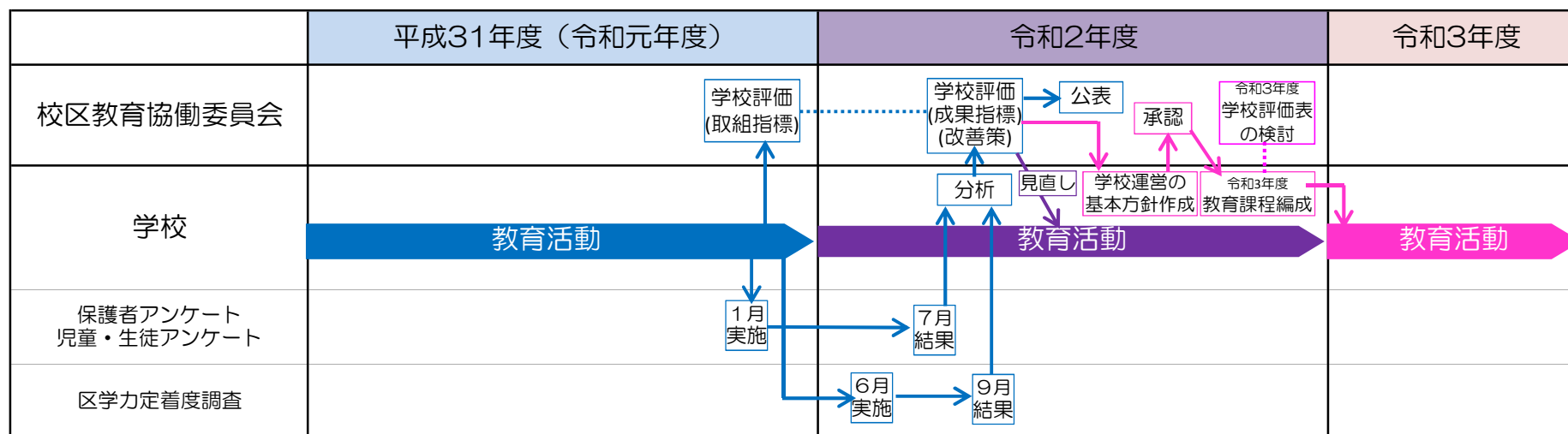
品川区立東海中学校 校長 黒田佳昌  
 東海中学校校区教育協働委員会 委員長 望月重信

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

**学校評価の流れ**（※平成31年度（令和元年度）の学校評価が令和2年度および令和3年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目 1 学力に関すること

重点目標		基礎学力を十分に見に付けさせるために「できる授業」「わかる授業」を進め、確かな学力を身に付けさせる学習指導を徹底する。 きれいで落ち着いた環境での学習は生徒の学力を向上させるとの認識のもと、生徒の学力の向上のために、豊かな心の育成を目指す美化活動を推進することで、学習環境を確保する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	来年度実施の区学力調査の結果で区の平均値を上回る。	数学は健闘しているが全体として、区の平均を上回ることはできなかった。基礎学力の充実が必要である。	C	新学習指導要領を見据えた授業改善を学校として取り組んでいく。教員同士の授業公開を進めるとともに、調査結果の分析を通して、教員自らの授業改善に活用する。
	本年度実施の調査結果を確実に分析し、分析結果を授業に反映させる。	分析はどの教科も適切に行っているが、分析結果の活用に関しては十分であるとは言いがたい。分析結果に基づいた授業改善が今後も重要である。	B	
②	生徒は授業規律を守り、しっかりとした授業態度で授業に臨んでいる。	授業規律はおおむね守られている。意欲的に授業に取り組む姿が更に見られるような授業改善を目指したい。	B	授業規律の維持とともに、新学習指導に対応した「主体的・対話的で深い学び」の充実も重要である。教員の授業研究の充実を図り、「ねらい」を明確にした授業展開に関する研究を深めるとともに、生徒の「主体的な学び」を促す工夫を今後も継続して行う。
	チャイム着席の徹底や学習準備の指導をとおして、学習・授業規律を更に確立する。	各教員は授業規律の確立に努めた。委員会活動など、子どもの活動に重点を置き、生徒自ら授業規律の向上に力を注ぐ活動を設定したい。	B	
	教員は、単元の「ねらい」、毎時間の授業の「ねらい」を明確にした授業を展開する。	全教員年間2回の研究授業を設定し、その中で、「ねらい」を明確にした指導案を作成し、実践した。	A	
③	校内美化が徹底されている。	美化活動に対する意識はあるが、徹底しているとは必ずしも言い切れない。	B	校庭の砂が室内に入りやすい環境で、美化活動に対して積極的になりきれない状況もある。しかし、日々の積み重ねが何よりも重要であり、あきらめたり、手を抜いたりせず継続して美化活動に取り組む姿勢をもたせていきたい。
	生徒共に教員が率先垂範して毎日の清掃活動を展開する。	清掃活動は行われており、指導も行っているが、率先垂範しているとはいいがたい。さらに積極的な活動が望まれる。	B	
	教員は、生徒に対し、授業の始まりに机の整頓や各自の足元のゴミ等を拾わせることを定着させ、よりよい学習環境を確保する。	教員は声掛けを意識してはいるが、ゴミ等を拾わせることを定着させるまでには至っていない。美化意識の更なる向上を目指したい。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		これからの日本を支えることのできる「良き市民」の育成を目指す具体的な教育課程の構築を推進し、本校を選択してくる生徒自身が、地元意識をもち、地域の期待に応え、地域に貢献できる東海中学校の確立を目指す。すべての教育活動で「時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉遣いの実践」を意識した教育活動を展開し、生徒自ら「15歳のあるべき姿」の追求をさせる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	規律と秩序ある生活態度を堅持している。	規律と秩序のある生活態度を生徒は引き続き堅持している。	B	落ち着いた学校生活を今後も維持していく。時間を守り、授業を大切にすることが、学校生活の基本となる。生徒会活動の充実を図ることで、生徒の自治意識を高め、規律と秩序を生徒自らが守っているという意識を更にもたせていく。
	学習・授業規律を更なる確立を目指すために、チャイム着席や学習準備の指導を徹底する。	継続して指導を行った。教員は指導を行い生徒は自覚のある行動を心がけている。生徒自ら規律を確立する自治的な活動を促したい。	B	
②	「時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉遣いの実践」がなされている。	生活委員による朝の挨拶運動は定着した活動となっており、継続して実践している。すべての生徒に自覚がもたらせるような更なる展開があるとよい。	B	日常の言葉遣いに気を遣い、さわやかな挨拶を交わすことは、人間関係を良好に維持するための基本となる。教員が率先して正しい言葉遣いで会話し、挨拶をしっかり行うことで生徒の挨拶の励行を強化する。
	TPOの重要性を十分理解させる学級指導を展開する。	時と場面に応じた態度や礼儀について、学校生活の各場面で繰り返し指導してきた。	B	
	日常生活で態度や礼儀について言及する。普段の学校生活や修学旅行等の学校行事において特に意識した教育活動を行う。	校外での活動を行う場面では特に社会とのかかわり、挨拶や礼儀、態度について教員は指導した。繰り返し話題にし、意識させることが重要である。	B	
③				

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		「確かな学力と豊かな心」は「健康と体力」が支えていることを強く意識させ、「健康と体力」について生徒自ら向上させようとする学習内容や学習環境を構築する。 オリンピック・パラリンピック教育をとおして、一日一日を大切に生きることや夢をもつこと、どんなに苦しくても諦めないで努力することの大切さを学び、自分事として考えさせる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	体育の授業に積極的に参加している。	無気力な見学者がほとんど見られず、生徒は体育の授業におおむねしっかり取り組んでいるといえる。すべての生徒が積極的に取り組むようさらに改善を加えたい。	B	新学習指導要領の完全実施を来年度に控え、次年度は男女共習の授業を行う。運動の習慣が身に付くような動機付けの感じられる体育授業を今後も目指す。
	運動の意味を理解させながら、楽しく運動できる、運動している実感がもてる体育授業を提供する。	授業の冒頭における補強運動で、コーディネーショントレーニングを取り入れるなど、随時工夫を加え、体育の授業を楽しむきっかけを作るよう努力している。	B	
②	生徒一人一人のオリンピック・パラリンピックについての意識が高まっている。	東京オリンピック開催に向けた取組は計画的に実施することができ、意識を少しずつ高める活動はできていたが、新型コロナウイルスの流行で、難しい状況となっている。	B	アテネオリンピック日本代表のサッカー選手石川直宏氏の講演会が3月の臨時休校で、実施できなかった。次年度以降、改めて講演会を計画し、オリンピック・パラリンピックに対する意識を高めていきたい。
	トップアスリートの生き様を知らせる講演会を2回以上設定する。	柔道の国際大会で優勝経験のある石川弘子氏やブラインドサッカー日本代表選手寺西一氏を招聘し、トップアスリートの生き方に触れる機会を生徒に提供することができた。	A	
	各教科において、オリンピック・パラリンピック教育のねらいに迫る授業を構築する。	オリンピックパラリンピック読本を活用し、オリンピックの歴史について学ぶ機会を各教科でもった。	B	
③	給食ではよく噛みながら残さず食べるなど、食事の重要性を理解している。併せて、残菜も減少している。	全校朝礼での校長講話の中で意識的に話題として取り上げた。前年度に比べ、残菜の量は減少しており、意識の高まりは見られる。	B	健康を維持するための食育については、今後も継続して取り組んでいく。残菜の量は減少してはいるが依然として多く、引き続き減らしていく努力は必要である。栄養を摂取することにもっと関心を持ち、健康な体作りに関する意識を今後も高めていく。
	給食で硬い食品を多く提供しよう学校栄養職員との連携を図る。また、全校朝礼で学校栄養職員の講話の機会をつくる。	全校朝礼で学校栄養職員の講話の時間を設定し、よく噛むことの重要性やバランスの良い食生活の重要性について指導した。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		全校生徒一人一人に関する情報を全教職員が常に共有するとともに、生徒一人一人に対する観察眼をしっかりと身に付け、いじめは絶対に起こらないよう努める。また、市民科や各教科等の全教育活動を通した心の教育を充実させるとともに、思いやりのあふれる各学級・学年の経営に努める。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	生徒が自らの心を戒め、生徒会を中心に「いじめの運動」を展開し、いじめの発生を見ない。	「いじめ0行動宣言運動」を展開し意識の向上を見た。いじめの発生を見過ごすことなく年間を通していじめに取り組んだ。	B	いじめが全く起きないことが理想ではあるが、いじめの兆候を見逃さずに適切に指導していくことが重要である。生徒のいじめ撲滅の意識を常に高める指導を継続するとともに、教員は生徒の情報を常に共有し、いじめの未然防止に努める。
	生徒会朝礼で、昨年度提示された「宣言」を毎回紹介し、いじめ撲滅意識を共有する。	いじめ0行動宣言を今年度も実施し、いじめ撲滅に向けた思いや決意を1人1人が書き、そのすべてを掲示し、思いを共有した。	A	
②	思いやりのあふれる各学級・学年の経営がなされている。	特に学年間の教員による情報共有を大切にし、心の通う指導を各学年で心がけている。	A	教員間の連携を更に強化し、学校全体で速やかに情報が共有できるような関係づくりを教職員から率先して構築していく。生徒の情報共有を密に図る体制を作り、生徒の健全育成に貢献する。
	変化を見逃さないよう、一人一人の生徒をよく観察できる情報共有の場を設置する。毎学期のアンケート調査結果を有効活用する。	生徒アンケートを定期的実施し、生徒の状況把握に努めた。生活指導主任を中心にアンケートの集計及び対応を行い、生活指導部会等の会議を行い、情報の共有に努めた。	A	
	生徒一人一人の存在感・自己有用感を確保した学校行事を展開する。様々な場面で援助希求できることの大切さを伝える。	学校行事における生徒の役割分担を大切にし、達成感をもたせる指導を展開した。SOSの出し方に関する指導も計画的に行い、生徒に寄り添う指導を心がけた。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成